

巻頭言：オンライン授業雑感

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学教養教育リサーチセンター 公開日: 2021-04-08 キーワード: 作成者: 小川, 桂一郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1518

巻 頭 言

—オンライン授業雑感—

教養教育部会部長
小川 桂一郎

今年度はコロナウイルス感染防止のために、4月からすべての授業がオンラインで実施しなければならなくなった。私は対面授業の要素が含まれる形態として、Zoomを使った同時双方向型オンライン授業を始めた。それから早くも一年が経とうとしている。ここでは、そのオンライン授業から感じたことを述べてみたい。

オンライン授業は、知識や技能の伝達という点では、期待した以上に有用であるとの印象をもった。私の授業では毎回、パワーポイントのpdfを事前に配布したうえで講義を行い、その後、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を使っていくつかのグループに分け、指定したテーマについて話し合いをさせる形で進めた。授業終了後は小テストも実施した。その結果からわかったのは、多くの学生が苦手とする化学の授業であったにもかかわらず、彼らはよく理解していたということである。オンライン授業では、各学生は一人で受講しているので、私語もできず、授業に集中できたおかげかもしれない。それに加えて、教室よりもパワーポイントの画面が見やすいこともあるだろう。このことは大人数の授業ではより顕著になるのではないと思われる。

もちろん学生の中には、オンライン授業に接続しただけで、授業に参加していない者もいる。寝ているのかもしれないし、授業に無関係のことをやっているのかもしれない。しかし、オンラインでは、そのようなやる気のない学生の姿はこちらの視界に入っていないし、私語もない。朝早くから大学に出かけて行かないで済むのもありがたい。

しかし、オンライン授業には大切な点が欠けている。その一つは、学生の反応が分かりにくいことだ。対面授業では、学生の顔を見ながら話すので、理解出来たのか出来なかったのか、面白いと思ったのがそうでないのがすぐに分かる。理解出来ていない場合には、もう一度ゆっくり話したり、説明の仕方を変えたりして、理解してくれるまで話を繰り返す。理解できて嬉しそうな顔を見せてもらえると、こちらも嬉しくなる。目を輝かしながら、期待通りに頷いてくれる学生がいると、じつに楽しい。このような喜びはオンライン授業では味わえない。

オンライン授業のより深刻な問題点は、学生同士の繋がりが生まれにくいことだ。オンライン授業でも、対面に比べれば劣るものの、教員と学生との間のコミュニケーションはとれるようになってきている。これに対して、学生間のコミュニケーションはとりにくい。そのため仕組みが設けられていないように見える。このため、オンライン授業に出席しているだけでは、学生同士が知り合う機会はきわめて限られる。

大学生活において、友人をつくることは勉学に劣らず大切である。とくに入学したばかりの1年生にとっては、親しい友人が得られるかどうかは、4年間の大学生活のあり方を変え

てしまうといってもよいほどであろう。その友人は生涯の友になるかもしれない。対面の授業であれば、学生同士は簡単に話しかけることができ、知り合いになれる。隣り合って、分からないことを聞き合うこともできる。そういうことがきっかけとなって友人ができる。学生同士の繋がりを生むためにも対面授業が必要なのである。

オンライン授業を経験したおかげで、あらためて対面授業の重要性を意識することができた。とりわけ1年生向けの授業は、対面授業とすることが大学として必須であると感じる。一方で、大人数の授業は、オンラインも取り入れる余地があると思う。コロナ禍の収束はまったく見通せないが、1日も早く対面授業のできる日が戻ってくることを願っている。